

高石市女性の就労実態調査報告書

【概要版】

アンケートでわかったこと

- ・女性が出産後も離職せず働き続けるためには、「保育所や放課後児童クラブなど、子どもを預けられる環境の整備」が必要だと考える人が8割を超えています。
- ・職場におけるハラスメントでは、パワーハラスメントの見聞きや被害が多く、パワーハラスメントを今の職場で見聞きした人は34.8%、経験した人は15.6%、セクシュアルハラスメントを今の職場で見聞きした人は19.6%、経験した人は9.0%となっています。
- ・回答者の6割以上が仕事と家庭生活の両立に負担を感じています。

調査の目的

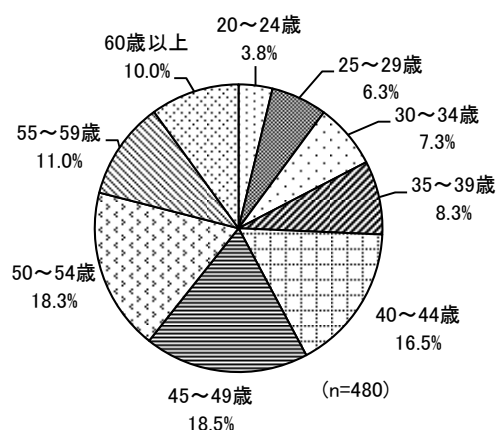
「第2次高石市男女共同参画計画」並びに「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」に基づく「市町村推進計画」の策定にあたり、市内の事業所に勤める女性の就労等に関する意識や実態を把握し、計画策定の基礎資料とするとともに、今後の男女共同参画施策を効果的に実施するために活用することを目的として、今回の調査を実施しました。

調査の概要

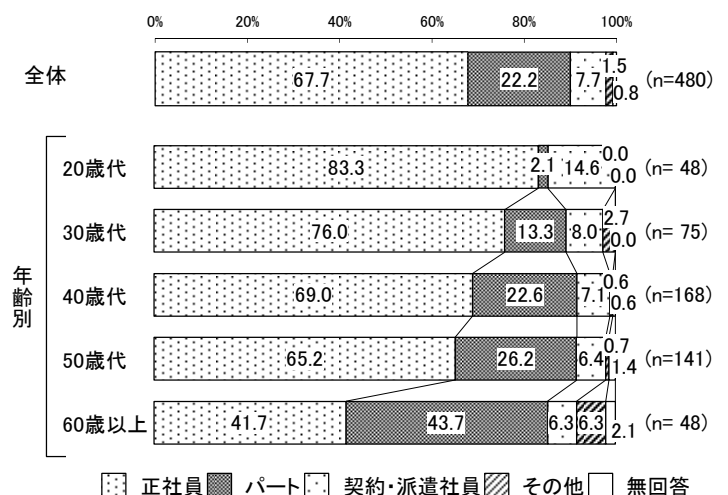
- 調査対象 市内事業所で就労している女性労働者(1,060人)
- 調査方法 高石市事業所人権教育推進連絡協議会加入事業所を通じて女性労働者へ配布依頼し、郵送にて調査票を回収しました。
- 調査期間 平成28年7月1日～7月20日
- 調査内容
 - ・仕事について
 - ・職場環境について
 - ・家庭や生活全般について
- 回収数 480票(回収率45.3%)

属性

回答者の年齢



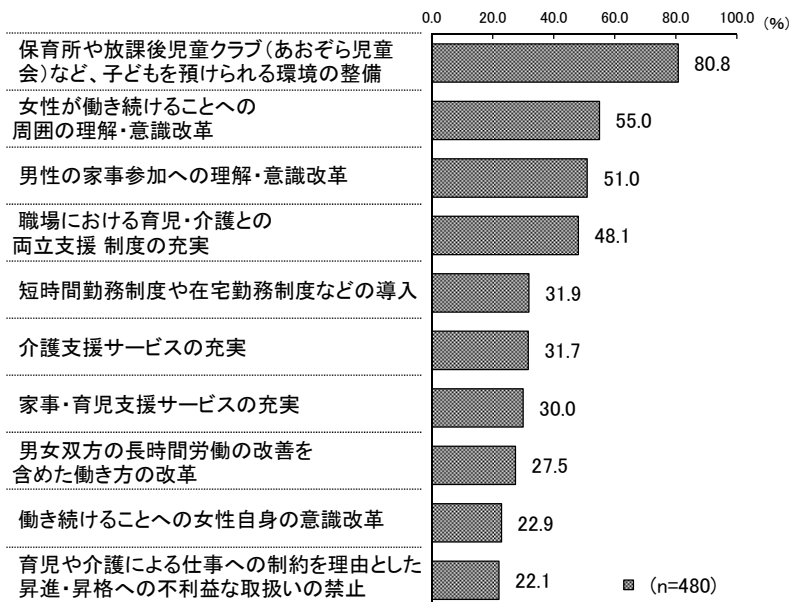
回答者の就労形態



女性が働き続けるために必要なこと

問 あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。(〇はいくつでも)

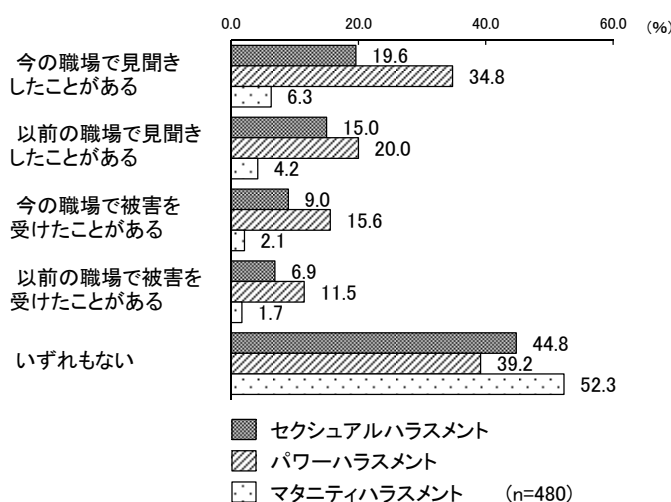
女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために必要なことは、「保育所や放課後児童クラブ(あおぞら児童会)など、子どもを預けられる環境整備」が 80.8%で特に高く、これに「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」(55.0%)、「男性の家事参加への理解・意識改革」(51.0%)、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」(48.1%)が5割前後で続いています。



職場におけるハラスメントの見聞きや被害経験

問 あなたは、職場におけるハラスメントの見聞きや被害を受けた経験がありますか。次のそれぞれについてお答えください。(それぞれ〇はいくつでも)

職場におけるハラスメントの見聞きや被害を受けた経験は、パワーハラスメントの割合が高く、見聞きしたことがある経験は今の職場 34.8%・以前の職場 20.0%、また被害を受けた経験は今の職場 15.6%・以前の職場 11.5%となっています。セクシュアルハラスメントでは、見聞きの経験は今の職場 19.6%・以前の職場 15.0%、被害を受けた経験は今の職場 9.0%・以前の職場 6.9%となっています。



仕事と家庭生活の両立の負担感

問 あなたは、仕事と家庭生活の両立に負担感を感じていますか。(〇は1つ)

仕事と家庭生活の両立に負担を感じている人(「とても感じる」と「どちらかといえば感じる」の合計)は、全体では 62.3%で、世話の必要な子どもがいる人では特に高く 78.9%となっています。

